

令和 5 年 6 月 7 日現在

機関番号：12603

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2019～2021

課題番号：19H01244

研究課題名（和文）歴史的アヴァンギャルドの作品と芸術実践におけるジェンダーをめぐる言説と表象の研究

研究課題名（英文）Avant-Garde and Gender Problems

研究代表者

西岡 あかね（秋元あかね）（Nishioka, Akane）

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・准教授

研究者番号：30552335

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 13,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、アヴァンギャルドの言説や表象を、従来の研究が注目してこなかったジェンダー視点から分析することで、アヴァンギャルドの芸術実践の諸相を再検討することを目指していた。研究過程では以下の成果が得られた。個別研究：雑誌論文28件、学会発表38件、図書6点。共同研究：講演会・研究会5件、グループ発表・シンポジウム6件、シンポジウムの論集1件（オンライン出版）。本研究の成果を広く発信するための場としてホームページを作成。その他、女性アヴァンギャルドのアンソロジー出版を期間中に企画し、その第一弾が2023年11月に出版される予定。また、本研究のまとめとなる論集の出版計画も現在進行中である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、従来周辺的に扱われてきたジェンダーの問題をアヴァンギャルドの文学・芸術的営為の本質的要素と見なして研究の中心に据えた画期的なプロジェクトであり、多言語地域の研究スタッフを結集させた学際的研究体制を取ることで、アヴァンギャルド研究に新しい研究視座を提供することに成功した。また、現代の文学・芸術においてジェンダーの問題への関心が高まっていることを考慮して、愛知芸術文化センターとコラボレーションする形で連続シンポジウム開催し、研究成果を広く一般に公開するアウトリーチ活動も行い、大きな反響を得た。さらに、若手女性研究者が本研究に多数参加していたことも、本研究の社会的意義として強調したい。

研究成果の概要（英文）：This study aimed to reexamine various aspects of avant-garde artistic practices through the analysis of avant-garde discourses and representations from a gender perspective. Through the process of individual and collaborative researches, the following outcomes are obtained. 1) Outcomes of individual researches: 28 journal articles, 38 conference presentations, and 6 books. 2) Outcomes of group researches: 5 research workshops, 6 group presentations and symposiums, 1 symposium proceedings (published online). 3) A website was also created as a platform to widely disseminate the results of this research. Additionally, an anthology publication focused on women's avant-garde artists was planned during the research period, and the first volume is scheduled for publication in November 2023. Furthermore, plans for publishing a collection of essays that summarizes this research project are currently underway.

研究分野：ドイツ文学

キーワード：アヴァンギャルド ジェンダー 比較文学 ドイツ文学 ロシア文学 イタリア文学 美術史 舞踊学

1. 研究開始当初の背景

本研究の着想に至る前段階として、平成 26～28 年度に東京外国語大学を拠点に行われた科研・基盤研究(B)「西欧アヴァンギャルド芸術における知覚のパラダイムと表象システムに関する総合的研究」(代表：山口裕之、課題番号：26284046)がある。本研究の代表者もこの研究に分担者として参加し、表現主義からワイマール期の急進的文学の中で、第一次世界大戦における技術体験によって統一的人体の表象が空洞化した結果、綱領的な「新しい人間」像がどのように変化したかを論じた。その際、従来は理念的・抽象的に捉えられることの多かったドイツ語圏の前衛文学の「新しい人間」像が、実際には兵士や労働者などの人物像と結びつくことで、ある「男性性」のイメージを形成している点に注目した。同じ傾向はドイツ語圏のアヴァンギャルドが新しい詩人・芸術家像を形成する際にも指摘できるが、女性のアヴァンギャルドはこの傾向にどのように反応していたのか疑問を持った。そこで、ドイツ語圏の前衛芸術家のジェンダー差異に関する研究を行っていた小松原、香川らとこの問題について勉強会を開いた。この勉強会で議論を重ねる内に、ジェンダーという視点は特定の女性作家に関わる周辺的な問題ではなく、アヴァンギャルドの芸術実践に深く関与する中心的なテーマなのではないかと考えるようになり、本研究の最初の構想を立てた。しかし、新しい人間や芸術のあり方をめぐって急進化したアヴァンギャルドの活動実践はドイツ語圏にとどまらない。更に各イズムのジェンダーに対するアプローチも各国の文化状況の相違を反映してそれぞれ異なるため、包括的な研究のためには言語圏や研究分野を超えてアヴァンギャルド文学・芸術の研究者が連携する必要がある。そこで、前述の科研研究メンバーの中から特に本研究のテーマに関心を持つ研究者が集まり、各自が以前から交流を持っていた国内外の研究者とも協力して本研究グループを立ちあげ、講演会やワークショップの場で当該テーマについての議論を重ねた上で、本研究の構想を立てた。

ジェンダー研究の視点からヨーロッパの歴史的アヴァンギャルドの作品や芸術実践を再考するという試みは近年盛んになりつつある。特に「忘れられた」女性芸術家の再発見を目的に新たなアンソロジーが複数編まれるなど、女性アヴァンギャルドに関する資料の整備が進みつつある。しかし、「女性性」や「男性性」といったジェンダー表象がアヴァンギャルドの文学的・芸術的営為の中でいかなる現れをしているかという問題は、特定の(主に女性)作家を対象とする個別研究の中でバラバラに論じられるに止まっている。本研究は、この研究状況を踏まえて、以前から様々な文脈の中でアヴァンギャルドとジェンダーの関係性に目を向けてきた国内外の研究者の知見を総合し、この問題を包括的に考察するための理論的基盤を築くと共に、ジェンダーの視点から、アヴァンギャルド研究の領域に新たな視座を提供するために立ちあげられた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、20 世紀初頭のヨーロッパで興隆した、いわゆる歴史的アヴァンギャルドの作品や芸術実践において、どのようなジェンダー的意味や表象が生み出されているかを、その文化的、思想的、社会的文脈において分析することにある。具体的には、後発的近代化を背景とするドイツ、イタリア、ロシアのアヴァンギャルド運動が、戦争や革命の体験を経て急進化してゆく中で「新しい人間」像が追及された結果、旧来の「女性らしさ」や「男性らしさ」をめぐる観念やイメージにどのような変容が見られるかを検証する。更に、前衛芸術家が「新しい人間」像の創造者/実践者と位置づけられてゆく過程で、「芸術」と捉えられる領域が拡大し、女性芸術家に活動の場が開かれたことと並行して、男性芸術家の自己意識にも揺らぎが生じる様子に光を当てる。同時に、このような状況を背景に、前衛芸術家としての自己の存在をめぐる議論が、ジェンダーアイデンティティーの多様な側面やジェンダー横断的な経験を表現し、探究する場となってゆく様を明らかにする。

前衛芸術家のセルフイメージと「新しい人間」像という二つのテーマを手掛かりに、アヴァンギャルドとジェンダーの関係性を明らかにする際、重点的に論じられるべき疑問点として以下の諸点があげられる。

アヴァンギャルドの新しい女性/男性の表象は、新たな図像的・言語的表現を伴うことが多いが、例えばフォトモンタージュの様な同一の技法によって表象されたジェンダーイメージには、各イズム間、あるいは男女のアヴァンギャルド間でどのような差異があるのか。またその差異はいかなる歴史的・文化的背景から生まれているのか。

一般的にアヴァンギャルドの運動には、作品からパフォーマンス的实践活動に移行する傾向があるが、この傾向は女性アヴァンギャルドに特に顕著だ。人形制作や舞踊等、言語によらない新たな芸術ジャンルへの指向も際立っているが、彼女たちはなぜこうした芸術実践の形態を選択した、あるいは選択せねばならなかったのか。

上記の点と関連して、芸術家同士のパートナーシップの問題がある。女性アヴァンギャルドの多くは男性芸術家のパートナーとして共同で実践活動を行っていたが、そのパートナーシ

ップのあり方は各イズムで大きく異なる。それぞれのパートナーシップのあり方を考察することで、芸術家がジェンダーロールの観念とどの様に関わっていたかが問われなければならない。

近年確認され始めた女性アヴァンギャルドの活動は、なぜ文学史・美術史記述の過程で抜け落ちていったのか。男性アヴァンギャルドが自らの運動を伝説化するような語りを好むのに対し、女性アヴァンギャルドはなぜ自身について語らない、あるいは語れなかったのか。

上述の様に、本研究はアヴァンギャルドの言説や表象をジェンダー視点から分析することで、アヴァンギャルドの芸術実践活動の諸相を再検討しようとしている。従って、本研究はアヴァンギャルドに関する個別研究であるのみならず、文学・芸術研究分野におけるジェンダー的分析の有効性を示すことにも寄与するものだ。その際、現代の文学・芸術においてジェンダーの問題がますます重要になっていることを考慮して、本研究は、現代の芸術全般を考察するための基盤を築くことにも寄与したいと考えている。

3. 研究の方法

本研究は、ドイツ語圏、イタリア、ロシア＝ソ連の各エリアにおけるアヴァンギャルドの文学的・芸術的運動の実践や個々の作品を分析対象とする個別研究と、ジェンダー的意味やイメージの形成に関する理論的考察という二つの軸を持っている。その際、後者の視点から個別的研究で得られた知見を統合することで、アヴァンギャルド研究に新しい包括的な研究視点を提示することが目指されている。従って、ジェンダー研究に関する様々な理論的言説を研究の最初の段階で整理し、そのアヴァンギャルド研究への応用方法についてメンバーで議論することで、研究の理論的基盤を確保することが重要になる。そこで、本研究の実施にあたっては大きく三つの枠組みを設けた。(1)研究のコンセプトと理論をメンバー間で共有する。(2)メンバー間で共有した理論的知見を念頭におき、エリア別、芸術ジャンル別の研究グループごとに個別研究を行う。(3)グループ研究の成果を総合する包括的考察を行い、ジェンダーの視点からアヴァンギャルドの文学的・芸術的営為を俯瞰する全体像の獲得を目指す。この大枠に従って研究を遂行するために、研究分担者の他に国内研究協力者と海外共同研究者を迎えて共同研究体制を取ることとし、具体的には以下のような手順で研究を進めた

2019年度は研究の最初のステップとして、ジェンダー理論の勉強会を東京外国語大学総合文化研究所内で行い、外部講師も招いて勉強会やワークショップを開催した。次に理論的議論から得られた知見を念頭に置きつつ、エリア別に研究グループを形成し、各イズムにおける個別の対象を取り上げて研究を行う。その際、各グループは研究遂行に必要な文献や資料を明確化し、国内外でその調査を進めた。

2020年度は、前年度にエリア別に行った個別研究の成果を結ぶ総合的考察の第一歩として、各エリアをまたぐ形でいくつかの研究セクションを形成し、文学、造形芸術、舞踊など同一ジャンル間、あるいは同一モチーフやテーマ間の比較研究を行った。これによって、アヴァンギャルドがジェンダーの問題とどの様にかかわっているのかを考える際に、各イズムのエリア的特異性を明らかにするに止まらず、各イズムを結ぶ共通項を浮かび上がらせることで、個別研究で得られた知見を関連付ける総合的視点を獲得することを目指した。

2021年度は、前年に引き続き各研究グループでの個別研究を継続しつつ、セクションごとの比較研究と、グループ発表で行った議論を踏まえて、常にエリア横断的な全体像を得ることを意識しながら研究を行った。この研究成果の総まとめとなるシンポジウムをこの年度内に予定していたが、新型コロナウイルス感染症の拡大とウクライナ戦争の勃発によって、ヨーロッパおよびロシアの研究研究者の渡航が見込めなかったため、2022年度に計画を延長したが、2022年度も引き続き状況が好転しなかったため、国内での連続シンポジウムに切り替えて、研究成果を発表した。

4. 研究成果

【グループ発表・シンポジウム】

グループ研究の成果を総合する企画として、計6件のグループ発表とシンポジウムを開催した。特に、愛知芸術文化センターとのコラボレーション企画である「ダンス・スコア特別講座シンポジウム」は、一般向けの連続シンポジウムとして計三回開催されたが、毎回100名を超す聴衆が来場した。その際、来場者からは、次の企画や論集等の出版計画についての問い合わせが多数寄せられ、アカデミックな研究がこれほど大きな反響を呼んだことに驚かされるとともに、様々な分野の研究者も数多く来場したことで、新しい研究ネットワーク構築の機会ともなった。新型コロナウイルス感染症の拡大の影響で、研究期間を通じて海外での研究が制約される中、この連続シンポジウムは、本研究最大の成果であったと言える。

1. ワークショップ「女性の運動としてのアヴァンギャルド」、日本比較文学会第81回全国大会、2019年6月15日、北海道大学、発表者：西岡あかね、小松原由理、横田さやか、沼野恭子
2. 企画セッション「女性の文学としてのアヴァンギャルド」、世界文学・語圏横断ネットワー

- ク第 11 回研究集会、2019 年 9 月 20 日、同志社大学、報告者：横田さやか、小松原由理、河村彩
3. ダンス・スコレ特別講座シンポジウム「踊る女性の身体」、2021 年 3 月 27 日愛知芸術文化センター、発表者：山口庸子、柴田隆子、横田さやか、梶彩子、コメンテーター：唐津絵里、司会：西岡あかね
 4. シンポジウム「アヴァンギャルドの運動表象」、日本独文学会春季研究発表会、2021 年 6 月 5 日、オンライン開催、発表者：和田忠彦、西岡あかね、山口庸子、柴田隆子、小松原由理
 5. ダンス・スコレ特別講座シンポジウム「身体のプリコラージュ」、2022 年 3 月 19 日、愛知芸術文化センター、発表者：前田和泉、小久保真理江、小松原由理、山口庸子、李旒、コメンテーター：西岡あかね、唐津絵理
 6. ダンス・スコレ特別講座シンポジウム「ダンスと人形」、2023 年 3 月 18 日、愛知芸術文化センター、発表者：西岡あかね、河村彩、角山朋子、山口庸子、海老根剛、コメンテーター：唐津絵里、香川檀

【講演会・研究会開催】

個別研究で得られた知見を交換し、個別研究で得られた知見を関連付けるための理論的考察を深めるために、国内外の研究者も招いて計 5 回の講演会・研究会を開催した。

1. チェチリア・ベッコ教授（ローマ・ラ・サピエンツァ大学）講演会「未来派と女性」、2019 年 6 月 27 日、東京外国語大学総合国際学研究所、コメンテーター：和田忠彦、横田さやか、通訳：土肥秀行、司会：小久保真理江
2. 田村和彦教授（関西学院大学）講演会「閉ざされた身体 / 流れ出す身体」、2019 年 9 月 27 日、東京外国語大学総合文化研究所、コメンテーター：小野寺拓也、司会：西岡あかね
3. 映画上映会 & ワークショップ「性の境界線を超えて」、東京外国語大学総合文化研究所、2020 年 2 月 17 日、映画解説：西岡あかね、発表者：小松原由理、熊谷謙介
4. 勉強会「アヴァンギャルドの舞踊」、2020 年 9 月 8 日、オンライン開催、報告者：山口庸子、柴田隆子、横田さやか、梶彩子
5. 講演会「私の女性史」、2021 年 11 月 27 日、オンライン開催、講演者：香川檀、姫岡とし子、コメンテーター：横田さやか、司会：西岡あかね

【研究成果の一般公開】

本研究の成果を広く一般に公開するため、本研究のホームページを作成した。

<http://www.tufs.ac.jp/ag/>

イベントや学会における発表の報告を当ホームページ上に公開した。ホームページは、本研究期間終了後も研究グループの情報発信に活用し、今後は、日本ではまだ十分認知されていない女性アヴァンギャルドを地域別に紹介する他、アヴァンギャルドとジェンダーというテーマに関する学術的情報を網羅的に提供する。

【論集・翻訳出版】

1. シンポジウム「アヴァンギャルドの運動表象」（日本独文学会春季研究発表会、季研究発表会、2021 年 6 月 5 日）の成果をまとめた論集をオンライン出版した。小松原由理 編『アヴァンギャルドの運動表象 日本独文学会研究叢書 149』（日本独文学会、2022 年）。
https://www.jgg.jp/pluginfile.php/133/mod_book/chapter/30/%E7%A0%94%E7%A9%B6%E5%8F%A2%E6%9B%B8149.pdf
2. 女性アヴァンギャルドのアンソロジー出版事業の第一弾として、アンナ・ラインスベルク 編著、西岡あかね訳『それぞれの戦い エミー・バル＝ヘニングス、クレール・ゴル、エルゼ・リュートル』を 2023 年 11 月に出版予定（東京外国語大学出版会）。今後、第二弾も企画中である。
3. 本研究のまとめとなる論集は、2023 年度以降に出版予定。

【個別研究の成果】

研究分担者が期間中に行った個別研究の成果は順次、雑誌論文や学会での口頭発表の形で公開された。期間中に本研究グループのメンバーが発表したのは、雑誌論文が合計 28 件（うち査読付き：19 件 / 国際論文：6 件）、学会発表が合計 38 件（うち国際学会 4 件）である。また、図書は以下の 6 点が期間中に出版された。

1. 香川檀『ハンナ・ヘーヒ 透視のイメージ遊戯』（水声社、2019 年）
2. 熊谷謙介 編『男性性を可視化する - 男らしさの表象分析』（青弓社、2020 年）
3. 田村和彦『ドイツ 庭ものがたり』（関西学院大学出版会、2021 年）
4. 柴田隆子『オスカー・シュレンマー パウハウスの舞台芸術』（水声社、2021 年）
5. 河村彩 編訳『革命の印刷術』（水声社、2021 年）
6. 沼野 恭子『アレクシエーヴィチ「戦争は女の顔をしていない」』（NHK 出版、2021 年）

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計28件（うち査読付論文 19件 / うち国際共著 6件 / うちオープンアクセス 17件）

1. 著者名 Aya Kawamura	4. 巻 4
2. 論文標題 1930-	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 RUSSIAN CULTURE ON THE CROSSROADS OF HISTORY: Far East, Close Russia	6. 最初と最後の頁 315-326
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する
1. 著者名 河村彩	4. 巻 15
2. 論文標題 宇宙開発時代のメディア・アート ソヴィエト連邦のキネチズム	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 表象	6. 最初と最後の頁 117 - 137
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 山口庸子	4. 巻 3
2. 論文標題 文学、ダンス、ジェンダー 学際的研究への歩み	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 GRL	6. 最初と最後の頁 28-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 横田さやか	4. 巻 33
2. 論文標題 未来派ダンス宣言 を読む - マリネッティのメディア戦略と舞踊論 -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 未来派ダンス宣言 を読む - マリネッティのメディア戦略と舞踊論 - 、『立命館言語文化研究	6. 最初と最後の頁 59-82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小松原由理	4. 巻 58
2. 論文標題 ベルリン・ダダとカバレット: ラウール・ハウスマンのカバレット論をめぐって	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ドイツ文学論集	6. 最初と最後の頁 113-137
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 柴田隆子	4. 巻 66
2. 論文標題 舞台芸術における「ジェンダー」考	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 シアターアーツ	6. 最初と最後の頁 63-70
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小久保真理江	4. 巻 25
2. 論文標題 フォルトゥナート・デペーロのニューヨーク滞在記における身体の表象	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 総合文化研究	6. 最初と最後の頁 96-111
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 河村彩	4. 巻 14
2. 論文標題 五カ年計画を可視化する－イゾスタトとソヴィエトのインフォグラフィックス－	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 FLS言語文化論集 POLYPHONIA	6. 最初と最後の頁 1-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小松原由理	4. 巻 24
2. 論文標題 モデルネからアヴァンギャルドヘーカバレット「11人の死刑執行人」と若者たちの企て	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 非文字資料研究	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 西岡あかね	4. 巻 24
2. 論文標題 アヴァンギャルド研究と女性文学	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 クアドランテ	6. 最初と最後の頁 129-133
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 香川 檀	4. 巻 6
2. 論文標題 写真と似たもの ゲルハルト・リヒターの 記憶絵画 と女性イメージ	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ユリイカ	6. 最初と最後の頁 84-92
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Akane Nishioka	4. 巻 15
2. 論文標題 Der Traum von der weiblichen Solidarität: Expressionistinnen im Ersten Weltkrieg	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Expressionismus	6. 最初と最後の頁 102-112
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 沼野恭子	4. 巻 6
2. 論文標題 ロシア知識人の苦悩 カインは何度アベルを殺すのか	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 209-218
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 香川檀	4. 巻 2
2. 論文標題 ネイキッド・ポートレート の黎明 男性がまなざす裸体の自我	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 ユリイカ	6. 最初と最後の頁 162-169
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 前田和泉	4. 巻 26
2. 論文標題 反体制と「文学」 ウリツカヤ『緑の天幕』を手がかりに	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 スラヴ学論集	6. 最初と最後の頁 33-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Maeda Izumi	4. 巻 番号無し
2. 論文標題 .	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ...; () IX	6. 最初と最後の頁 181-187
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Yoko Yamaguchi	4. 巻 番号無し
2. 論文標題 Die Maske als Medium der Gemeinschaftlichkeit. Die Rezeption der fremden Masken im Werk von Edward Gordon Craig, Lothar Schreyer und Mary Wigman	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Einheit in der Vielfalt? Germanistik zwischen Divergenz und Konvergenz Asiatische Germanistentagung 2019 in Sapporo	6. 最初と最後の頁 328-335
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 小松原由理	4. 巻 57
2. 論文標題 踊るダンディー：フーゴ・バルとラウール・ハウスマンの舞踊と仮面	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ドイツ文学論集	6. 最初と最後の頁 113-137
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小松原由理	4. 巻 122
2. 論文標題 ハンナ・ヘーヒ、ダダの女性批評家、あるいは哄笑する女ダンディ？	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 近代	6. 最初と最後の頁 55-66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 香川檀	4. 巻 122
2. 論文標題 「指の間から見透す」ようなモノグラフ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 近代	6. 最初と最後の頁 40-54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nishioka Akane	4. 巻 53
2. 論文標題 Die Entdeckung der Modernität: Expressionismus-Rezeption in Japan vor und nach der Erdbebenkatastrophe 1923	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Jahrbuch für Internationale Germanistik	6. 最初と最後の頁 109 ~ 136
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3726/JA532_109	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 沼野恭子	4. 巻 24
2. 論文標題 メニッペアの翼 ペトルシェフスカヤの幻想小説	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 総合文化研究	6. 最初と最後の頁 47-59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小松原 由理	4. 巻 63
2. 論文標題 女性ダダイストの詩学	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 比較文学	6. 最初と最後の頁 81 ~ 94
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20613/hikaku.63.0_81	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山口 庸子	4. 巻 2020
2. 論文標題 表現舞踊のジャポニスム	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 舞踊学	6. 最初と最後の頁 38 ~ 46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11235/buyougaku.2020.43_38	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sayaka Yokota	4. 巻 番号無し
2. 論文標題 Le danze aeree immaginarie e praticate agli albori dell'aviazione in Italia	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 La danza in Italia nel Novecento e oltre: teorie, pratiche, identitia	6. 最初と最後の頁 73-83
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 小久保真理江	4. 巻 23
2. 論文標題 アメリカへのまなざし バヴェーゼ、カルヴィーノ、エーコ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 「総合文化研究」	6. 最初と最後の頁 52-77
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 香川 檀	4. 巻 50
2. 論文標題 現代美術における ヴァニタス の回帰 ジャン・ティンゲリの場合	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 武蔵大学人文学会雑誌	6. 最初と最後の頁 93-122
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 横田さやか	4. 巻 12
2. 論文標題 イタリア未来派研究と未来派の定義の変遷をめぐる考察	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 上智ヨーロッパ研究	6. 最初と最後の頁 149-165
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計38件（うち招待講演 5件 / うち国際学会 4件）

1. 発表者名 柴田隆子
2. 発表標題 空間造形と身体 バウハウスの舞台芸術工房の試み
3. 学会等名 専修大学現代文化研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 香川檀
2. 発表標題 日独、女性アーティストの足跡を追って
3. 学会等名 科研（基盤研究B：19H01244、代表：西岡あかね）主催オンライン講演会「私の女性史」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 横田さやか
2. 発表標題 未来派の女性芸術家たちのオーラル・ヒストリー：舞踊家の事例を中心に
3. 学会等名 科研（基盤研究B：19H01244、代表：西岡あかね）主催オンライン講演会「私の女性史」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 柴田隆子
2. 発表標題 仮想空間における声のダンス
3. 学会等名 第73回舞踊学会大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 香川 檀
2. 発表標題 ジェンダー視点が拓く美術史・イメージ研究の地平
3. 学会等名 お茶の水女子大学ジェンダー研究所 (IGS) オンラインシンポジウム「ジェンダーの視点に基づく美術史研究の現在」(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 柴田 隆子
2. 発表標題 20世紀初頭の「舞踊」概念の射程 ~パウハウスとオスカー・シュレンマーを中心に
3. 学会等名 舞踊研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 西岡あかね
2. 発表標題 村山知義が描いたドイツ
3. 学会等名 国際シンポジウム「吼えるアジア 東アジアのプロレタリア文学・芸術とその文化移転1920 - 30年代」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山口 庸子
2. 発表標題 モダンダンスの仮面舞踊におけるジャポニズムとジェンダー
3. 学会等名 科研(若手研究:21K12871、代表:釘宮貴子)主催シンポジウム「20世紀初期の音楽と舞踊におけるジャポニズム・オリエンタリズム - 女性の表象と身体」(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 香川 檀
2. 発表標題 イメージ探求の平行・ストーリー：“ダダ・カップル”ヘーヒとハウスマンの“その後”
3. 学会等名 上智大学ヨーロッパ研究所/科研費基盤研究C主催国際シンポジウム「ラウル・ハウスマンとポストダダ 危機の時代のアヴァンギャルド」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 河村 彩
2. 発表標題 ロシア・アヴァンギャルドの衣装と身体表象
3. 学会等名 ダンス・スコレ特別講座シンポジウム「ダンスと人形」
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 西岡あかね
2. 発表標題 村山知義とニディ・インペコーフェン
3. 学会等名 ダンス・スコレ特別講座シンポジウム「ダンスと人形」
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 山口 庸子
2. 発表標題 モダンダンス、芸術人形劇、アニメーション - ロッテ・ライニガーをめぐって
3. 学会等名 ダンス・スコレ特別講座シンポジウム「ダンスと人形」
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 河村彩
2. 発表標題 複製技術時代のグラフィック：1930年代のリッツキーを中心に
3. 学会等名 北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター客員研究員セミナー
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 横田さやか
2. 発表標題 舞踊研究とアヴァンギャルド研究
3. 学会等名 科研費（基盤研究B）「歴史的アヴァンギャルドの作品と芸術実践におけるジェンダーをめぐる言説と表象の研究」勉強会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山口庸子
2. 発表標題 ドイツ語圏モダニズムの芸術人形劇 リヒャルト・テシュナーを例として
3. 学会等名 日本独文学会秋季研究発表会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 横田さやか
2. 発表標題 未来派と“踊り子の画家” - セヴェリーニ、パッラ
3. 学会等名 研究会「20世紀イタリアの芸術と文化」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 横田さやか
2. 発表標題 未来派ダンス宣言を読む マリネッティの舞踊論を検証する
3. 学会等名 モダニズム研究会「イタリアにおけるモダンとアヴァンギャルドの相克 - 前衛の宣言文を読み直す」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山口庸子
2. 発表標題 ドイツ表現舞踊における仮面と女性
3. 学会等名 ダンス・スコレ特別講座シンポジウム「踊る女性の身体 ドイツ・イタリア・ロシアのアヴァンギャルド舞踊」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 横田さやか
2. 発表標題 イタリア未来派と踊る女性の身体表象
3. 学会等名 ダンス・スコレ特別講座シンポジウム「踊る女性の身体 ドイツ・イタリア・ロシアのアヴァンギャルド舞踊」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 柴田隆子
2. 発表標題 パウハウス・ダンスにおける 女性 の身体
3. 学会等名 ダンス・スコレ特別講座シンポジウム「踊る女性の身体 ドイツ・イタリア・ロシアのアヴァンギャルド舞踊」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 西岡あかね、山口庸子、小松原由理、柴田隆子、和田忠彦
2. 発表標題 シンポジウム「アヴァンギャルドの運動表象」
3. 学会等名 日本独文学会春季研究発表会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山口庸子
2. 発表標題 モダンダンスと芸術人形劇における 他者 の引用
3. 学会等名 ダンス・スコア特別講座シンポジウム『身体のコラージュ - アヴァンギャルドは 他者 の身体をいかに引用したか』
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 前田和泉
2. 発表標題 ロシア・アヴァンギャルドの 働く女 ゴンチャローワ、マレーヴィチから全体主義へ
3. 学会等名 ダンス・スコア特別講座シンポジウム『身体のコラージュ - アヴァンギャルドは 他者 の身体をいかに引用したか』
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小松原由理
2. 発表標題 他者 を夢見る舞台 20世紀前半のヨーロッパ・キャバレー芸術と異文化表象
3. 学会等名 ダンス・スコア特別講座シンポジウム『身体のコラージュ - アヴァンギャルドは 他者 の身体をいかに引用したか』
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小久保真理江
2. 発表標題 イタリア未来派にとってのアフリカ
3. 学会等名 ダンス・スコレ特別講座シンポジウム『身体のコラージュ - アヴァンギャルドは 他者 の身体をいかに引用したか』
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小松原由理
2. 発表標題 やなぎみわ『神話機械』ライブパフォーマンス・プレトーク及びアフタートーク
3. 学会等名 静岡県立美術館
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 香川檀
2. 発表標題 ライフコースから考える女性アーティストの“夏”
3. 学会等名 都美セレクション グループ展 2019 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 香川檀
2. 発表標題 戦間期ドイツの美術と“コロニアルな身体”
3. 学会等名 比較ジェンダー史研究会ミニ・シンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 横田さやか
2. 発表標題 舞踊評論家A. G. ブラガリア - 踊る身体の表象と舞踊のナショナリズム -
3. 学会等名 イタリア学会第67回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 河村彩
2. 発表標題 : 1960-70
3. 学会等名 The 10 th East Asian Conference on Slavic Eurasian studies (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 河村彩
2. 発表標題 絵グラフで見るソ連 イソスタトによるグラフィック・デザインの冒険
3. 学会等名 第 57 回桑野塾
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 河村彩
2. 発表標題 : 1930-
3. 学会等名 JSPS 二国間交流事業「社会変動の時代における文化変容のダイナミクス：20 - 21 世紀の転換期のロシア」（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 西岡あかね、小松原由理、横田さやか、沼野恭子
2. 発表標題 女性の運動としてのアヴァンギャルド
3. 学会等名 日本比較文学会第81回比較文学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 横田さやか、小松原由理、河村彩
2. 発表標題 女性の文学としてのアヴァンギャルド
3. 学会等名 世界文学・語圏横断ネットワーク第11回研究集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田村和彦
2. 発表標題 閉ざされた身体 / 流れ出す身体
3. 学会等名 東京外国語大学総合文化研究所主催講演会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西岡あかね、小松原由理、熊谷謙介
2. 発表標題 性の境界線を超えて：マグヌス・ヒルシュフェルトとアヴァンギャルド
3. 学会等名 東京外国語大学総合文化研究所主催ワークショップ
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小久保麻里江
2. 発表標題 L'America di Pavese, Calvino ed Eco; L'America raccontata dagli scrittori italiani
3. 学会等名 東京外国語大学総合文化研究所研究発表会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小久保麻里江
2. 発表標題 イタリアのラップにおける抗議の声
3. 学会等名 ワークショップ「ラップ、ジェンダー、社会運動」
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計11件

1. 著者名 長塚英雄（編著）、沼野恭子 他	4. 発行年 2021年
2. 出版社 生活ジャーナル	5. 総ページ数 574
3. 書名 新・日露異色の群像 3 0	

1. 著者名 沼野充義、沼野 恭子、河村彩 他	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 306
3. 書名 ロシア文化 55のキーワード	

1. 著者名 エル・リシツキー、ニコライ・タラブーキン他（河村彩 編訳）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 水声社	5. 総ページ数 258
3. 書名 革命の印刷術 ロシア構成主義、生産主義のグラフィック論	

1. 著者名 ボリス・グロイス（河村彩 訳）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 人文書院	5. 総ページ数 242
3. 書名 流れの中で	

1. 著者名 小松原由理、西岡あかね、柴田隆子、香川檀、和田忠彦	4. 発行年 2022年
2. 出版社 日本独文学会	5. 総ページ数 79
3. 書名 アヴァンギャルドの運動表象（日本独文学会研究叢書149）	

1. 著者名 柴田隆子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 水声社	5. 総ページ数 287
3. 書名 オスカー・シュレンマー バウハウスの舞台芸術	

1. 著者名 田村和彦	4. 発行年 2021年
2. 出版社 関西学院大学出版会	5. 総ページ数 256
3. 書名 ドイツ 庭ものがたり	

1. 著者名 沼野 恭子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 NHK出版	5. 総ページ数 116
3. 書名 アレクシエーヴィチ『戦争は女の顔をしていない』	

1. 著者名 香川 檀	4. 発行年 2019年
2. 出版社 水声社	5. 総ページ数 312
3. 書名 ハンナ・ヘーヒ	

1. 著者名 神奈川大学人文学研究所、熊谷 謙介 編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 青弓社	5. 総ページ数 288
3. 書名 男性性を可視化する	

1. 著者名 沼野 充義、望月 哲男、池田 嘉郎 編集代表	4. 発行年 2019年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 886
3. 書名 ロシア文化事典	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>歴史的アヴァンギャルドの作品と芸術実践における ジェンダーをめぐる言説と表象の研究 http://www.tufs.ac.jp/ag/</p>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	前田 和泉 (Maeda Izumi) (70556216)	東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授 (12603)	
研究分担者	山口 庸子 (Yamaguchi Yoko) (00273201)	名古屋大学・人文学研究科・准教授 (13901)	
研究分担者	小久保 真理江 (Kokubo Marie) (00815277)	東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・准教授 (12603)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	横田 さやか (Yokota Sayaka) (00833740)	東京大学・大学院総合文化研究科・特別研究員 (12601)	
研究分担者	香川 檀 (Kagawa Mayumi) (10386352)	武蔵大学・人文学部・教授 (32677)	
研究分担者	河村 彩 (Kawamura Aya) (20580707)	東京工業大学・リベラルアーツ研究教育院・助教 (12608)	
研究分担者	田村 和彦 (Tamura Kazuhiko) (50117719)	関西学院大学・国際学部・名誉教授 (34504)	
研究分担者	沼野 恭子 (Numano Kyoko) (60536142)	東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授 (12603)	
研究分担者	小松原 由理 (Komatsubara Yuri) (70521904)	上智大学・文学部・准教授 (32621)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	柴田 隆子 (Shibata Takako)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	ベッコ チェチリア (Bello Cecilia)		
研究協力者	ハレンスレーベン マルクス (Hallensleben Markus)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関